

2017技術セミナー

関西支部「関西IT・ものづくり技術委員会」では9月14日(木)に大阪歴史博物館にて「イノベーションを通じた日本の成長戦略～ビッグデータとAI技術がビジネスを変える～」をテーマに「2017技術セミナー」を開催しました。

AI、IoT時代のデータの利活用

馬場康行 委員長((株)村田製作所)の開会挨拶に続き、まず、東京大学大学院情報学環の越塚登 教授より講演がありました。近代科学は「観察して分析する」所に成立しますが、人の判断や制御にはコストがかかることから、従来、「なすべき観察・分析」をすべて行うことはできませんでした。IoTによる低コスト化は、これを実現に近づけ、言わば「近代科学の民主化」をもたらします。日本は、ものづくりに限らず、サービスやコンテンツも含めて「品質管理の国」ですが、コストが合わず十分な最適化が行き届かなかったフィールドで、この「低コスト化」が進めば、「機械ならでは」のきめ細かさを実現できる可能性があります。現場からのアプローチが強い我が国では、「現状を維持し、変化をおこさせない」ためにICTを用いる傾向が強くなります。IoT・ビッグデータの利活用は、経営やビジネスの仕組み自体の変革とセットで行わなければ意味がありません。今後はDigital Transformation(ITの浸透で人々の生活をあらゆる面でよい方向に変化させる)の流れを強める必要があります。



アーキテクトより「人工知能への期待」をサブタイトルとする講演がありました。ICTの急速な進化により、限界費用と取引コストはゼロに近づき、社会と産業の構造に本質的な変化をもた



らしました。社会の課題も複雑さを増しており、その解決と経済の成長を両立させるべく、SDGsやSociety 5.0といった理念が提唱されています。価値がモノからコトやシステムに移る中で、Airbnb等のシェアリングエコノミーが台頭して来ました。従来の経済とこうした新たな共有経済の最適な組み合わせが、デジタル社会におけるビジネスモデルとして求められるでしょう。生命はカンブリア紀に眼と脳(情報処理機能)の発達により大きな進化を遂げました。同様に、CPS/IoTによる「見える化～価値創造」も世界を飛躍的に変えるかも知れません。



会場の様子

データ活用時代の公民連携

神戸市 創造都市推進部の松崎太亮 ICT創造担当部長より講演がありました。神戸市は、行政、市民、事業者の協働によりICT・データを活用して地域の課題を解決する「オープンガバメント



SDGs、Society 5.0の実現に向けて

(株)日立製作所 研究開発グループの城石芳博チーフ



社会]をめざしています。自治体への人材派遣に取り組む非営利団体Code for Japanにより民間企業から派遣されたフェローに「神戸市の(当時の)オープンデータは無用の長物」という厳しい指摘を受け、取り組みを見直しました。平成28年より、職員を対象とする「データアカデミー」を実施すると共に、姉妹都市であるバルセロナと、まちづくり×ICTをテーマとするワークショップを開催する等、人材育成に力を注いでいます。課題とタスクを可視化することで、職員間にデータの整備・活用に対するモチベーションが生まれ、データに基づく政策決定にシフトしつつあります。企業との連携により、地域住民のスマホにアプリをダウンロードしてもらい、子供にBLEタグを持たせて移動を見守る等の実証事業にも取り組んでいます。今後も、多様な連携を進めると共に、課題解決の過程で得られる知見を市民、産学、行政で共有し、市民みずからITを活用して地域の課題を解決する「シビックテック」の取り組みを強めて行きたいと考えています。

サイバーセキュリティの現状と対策

デジタルアーツ(株)・工藤陽介チーフエバンジェリストより「日常業務、ならびにIoTに潜むリスクについて」をサブタイトルとする講演がありました。マルウェアの検出経路はほとんどがメール、次いでウェブ、この2つで9割を超えますが、セキュリティ対策を実施している企業は1割程に過ぎません。メールやウェブは専門家でない普通の人を使うもので、対策には「フルプルーフ」(誤った操作を行えない、誤操作しても危険を生じない)の考え方が重要とな



ります。具体的には、危険なメールの検出・隔離、添付ファイルの無害化、メール内のURLリンクの削除、あるいはフィルタリングによるブロック等が有効です。IoTの進展によりますます多くの機器がネットワークにつながるようになりますが、現状のセキュリティ対策は極めて不十分です。ITのリスクは主として情報漏洩ですが、IoTでは、人命や財産を含む現実の世界が危険にさらされかねません。ベンダーは、デフォルトの設定をセキュアにする、問題の発生を想定し対策を立てておく、機器の廃棄まで責任を持つ、等の対応が必要です。



講演者との質疑応答

AI、ビッグデータを巡り、学・公・産の各界から講師をお迎えし、セキュリティを含むバラエティに富む視点から充実した内容のご講演をいただきました。

当日は約150名の参加があり、アンケートによる評価では、9割を超える方々から「とても良かった」「良かった」との好意的な回答をいただきました。「日々変化するAI、IoTについて多様な視点から現在の状況を知ることができた」、「4つのテーマがバランスよく整えられ、全体を通じて理解を深められた」等の高い評価を得ました。